

【組合の概要】

浦安魚市場協同組合の歴史は古く、昭和28年12月の設立である。当時は、浦安と江戸川区を結ぶ橋・浦安橋近くに組合があったが、昭和46年3月、高度化事業により現在の場所へ移転した。組合の共同店舗は当時の日本住宅公団と提携して建設した浦安駅前市街地住宅の1階に位置している。早朝からの営業は、正に伝統の朝市で、主に商人や一般業者に利用されている。一方誰でも自由に利用できる市場として、鮮度と安さ、そして品揃えの豊富さで地域住民にも大いに利用されている。

事業は共同施設の設置・運営以外に、共同購買、共同保管、販売促進事業、教育情報事業等を実施している。

【理事長会社概要】

有限会社山武水産は、宇田川正美理事長のお父様が昭和23年に創業した会社である。宇田川理事長は昭和44年に大学を卒業すると東京茅場町にあった酒問屋に就職した。当初は家業を継ぐ意志がなかったそうだが、父親からの要請をうけ昭和47年に入社している。組合が現在の場所に移転してその後昭和50年に法人化して有限会社山武水産となった。

浦安魚市場協同組合 宇田川正美理事長

◎うだがわ・まさみ 昭和44年3月専修大学経済学部卒業、東京の酒問屋勤務後、昭和47年家業の山武水産入社、昭和50年に法人化し、専務取締役就任。平成13年浦安魚市場協同組合代表理事就任、現在に至る。本会理事。62歳。



浦安魚市場協同組合

所在地 浦安市北栄2-19-15
 代表者 宇田川正美
 組合員数 32名 出資金 28175万円
 職員数 5名

水産物の食育を通じ魚文化と健康増進に貢献

山武水産の取扱商品は、

元々はマグロのみであったが、現在ではマグロの他に、北海道産紅さけと輸入のさけ、えびと干物を扱っている。えびと聞くとタイ産を連想しがちであるが、山武水産で扱っているのはインドネシア産とオーストラリア産の有頭えびと国産（九州方面）

の養殖車えびを取り扱っている。

水産物の売上について尋ねたところ平成8年頃がピークでその後は下降の一途だとか。かつて若い人は魚よりも肉を好むが、年を重ねるにつれ魚を多く食べるといふ傾向があった。そうした傾向も崩れつつあり、魚離れの危機感を強めている。水産白書によると、魚離れの理由として①子どもの魚嫌い②魚介類の割高感③料理が面倒の3つをあげている。

そこで会社としても、組合としても、お魚教室などを開催して消費者への食育に力を入れている。今年は浦安市の「観光キャンペーン2008」で「貝ムキ体験、さかなのさばき方とおろし方体験」と題した市民参加型の観光行事に参加している。

【宇田川理事長の横顔】

組合の理事長以外では、中央会理事の他、浦安商工会議所常議員やライオンズクラブ等の地域活動にも積極的に参加し、浦安食品衛生協会の会長でもあり、市川保健所管内食品衛生協会会長に就任。その功績から平成17年には厚生労働大臣賞も受賞された。

趣味についてお尋ねしたところ、旅行とのこと。魚市場の休みが週1日であり、連休は月に一度だけしかないのが、必然的に1泊2日で温泉旅行が多くなる。時間をフルに活用し、旅の相棒である奥さんと出かけるときは、行った先でウォーキングで歩きまわることが多いのだとか。座右の銘はゴーイングマイウエイだそう、何事にも屈しない不屈の精神は、常に健康と体力を維持するという心掛けからきているように感じられた。